

学校法人城西大学理事長
水田宗子の人生ノート
「偽らず、欺かず、諂わず」

第1章 私の原点、父、水田三喜男

水田は父・水田三喜男の国際政治観を語る。

世界の信頼集めた国際派

「父は、『日本の戦後復興は、国際社会への復帰と人材育成の基礎作の』と言っていました。大蔵大臣としても、政調会長としても、外国との交渉が多だけに、国際社会で尊敬される日本と、日本人であることの重要性を身に染みて考えていたと思います」

伝へるのついででも書いてい
アメリカ輸出入銀行総裁にも
ホテルの個室で直訴して、合
計3億3000万ドルを緊急手
配した。そして、この債務の
返済に万全を期すためIMF
当局から同額の3億3000
万ドルの借款予約を取り付け
た。当時、12億ドルの外貨保
有

その手腕と業績を知る新聞が
「平成の水田急募」と報じた。
日本経済の礎をつくった「経
済の水田」は国民の心に深く
残っている。
さかのほれば、51(昭和26)
年、衆議院の公職選挙法調査
特別委員長としてイギリスの

⑦

局をどう乗り切るか。大蔵
大臣たる三喜男の責務であ
る。とはいえ、IMFの条件は
金融引き締めだ。周囲の抵抗
を跳ねのけて、公定歩合引き
上げなどの行政指導を行っ
た。いわば憎まれ役である。

41年、佐藤内閣第1次改造
で金融引き締め策のため、ま
た出番が回ってくる。「自分
が引き締め策で国際収支を良
くすると、その後で大盤振る
舞いしていい子になれるのが
田中君であり、福田君だ」と
大臣退任の際にあいさつして
皆を笑わせた。
今日の経済危機に際して、

そして悪化した国際収支の
改善という大仕事を次々と
成し遂げた。その胸中は、自
ンハッタンの3行、さらには
メリカ、ファースト・ナショ
ナル・シティ、チェース・マ
「株式は暴落するし、恨みの
投書は山のように来るし、好
んでやるべき仕事ではないと

今日の日経危機に際して、

(特別編集委員・斎藤柳光)



IMF(国際通貨基金)総会で演説する水田三喜男大蔵大臣